

## はじめに

平成 11 年 12 月に第一期環境基本計画が策定されてから 10 年余りが経過しましたが、その間、地球温暖化や生物多様性に代表されるように、地球環境保全のための世界的な動きは、日々変化しています。

特に平成 22 年には、名古屋で生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）、メキシコのカンクンで気候変動枠組み条約第 16 回締約国会議（COP16）が開催されました。マスコミでもこれらの話題が取り上げられ、市民の関心もますます高まっています。

昨年わが国は、気象庁の観測史上、最も暑い夏となりましたが、市内の平均気温も、昭和初期の気温と比べると、約 3 度上昇しています。本市では、新たな商業施設や公共施設のオープンにより、まちが大きく様変わりする時を迎え、まちづくりはもちろん事業活動も、環境への配慮の視点がさらに求められています。

市では、第二期環境基本計画で「武蔵野市の気温を 1 度下げよう！」というスローガンを掲げ、環境学習や環境に関する活動の仕組みづくり、緑化、まちづくりなどさまざまな施策を実施してきました。その結果、昨年の市政アンケート調査において、「環境・ごみ対策」は、評価できる施策として第一位の評価をいただいております。

このたび策定した第三期環境基本計画では、以前から行っている地球温暖化対策に加え、生物多様性保全をテーマとして掲げています。計画期間中に行政が取り組む事業を体系立て達成度測定のための指標を設定しました。2050 年度時点での温室効果ガスの 60～80%削減（1990 年度比）や武蔵野市らしい自然の保全・創出を目標として、効果的に施策を展開してまいります。

私達が目指す「エコシティむさしの」の実現のためには、行政の施策だけではなく、市民・事業者の皆様の主体的な取組も不可欠です。計画では、市民生活や事業活動の中で取り組んでいただきたい行動を具体的に示しています。今後もさらに、市民・事業者・行政の協働により、持続可能なまちづくりを進めていきましょう。

平成 23 年 4 月 武蔵野市長 邑 上 守 正